

事務局受付 _____ 印
期別 _____ 期

指定航空従事者養成施設 入所申込書

_____年 ____月 ____日

日本学生航空連盟
指定養成施設管理者 殿

所属大学名 _____大学 ____年

氏 名 _____

連絡先住所 _____

同 電話 _____

私は、当養成施設に於いて自家用操縦士（滑空機・上級）の資格に係る養成コースに入所したく、入所審査成績報告書、入所審査判定要領・成績表、フライト・ログ（最近30回分のコピー）、学科試験結果通知書（コピー）および手数料を添えて申し込みます。

▽ 経 歴 （入所審査のフライトを含む、入所申込書提出以前の経歴を記入）

滑空機	上 級	動 力	課程の科目を練習した飛行回	
総 飛行時間	時間 分	時間 分	ウインチ曳航回数	回
// 飛行回数	回	回	空中操作科目	回
単独飛行時間	時間 分	時間 分	緊急処置科目	回
// 飛行回数	回	回	失速及び回復	回

▽ 操縦練習許可書の番号、期限

_____第 _____号 有効期限 _____年 ____月 ____日まで

▽上記の者は指定養成施設に入所し、当課程を期間内に修了する能力が有ると認めます。

指定養成施設登録教官 署名 _____

（入所審査を行った教官は原則として技能審査に立ち会うこと）

訓練所長 署名 _____

入所審査成績報告書
(上級滑空機)

総合判定

① 受審者調書 (受審者記入欄)			
ふりがな		生年月日	
氏名		年 月 日生	
受審する資格	審査の種類	既得の技能証明	
自家用操縦士	技能証明	_____No_____	
審査に使用する滑空機			操縦練習許可書番号
等級	型式	国籍・登録記号	No _____
上級滑空機	式 型	J A	有効期限 _____年 月 日
現住所	郵便番号		
連絡先 (大学名)	電話番号		
学科試験合格	年 月 日		受験地
飛行経歴 (入所審査を受ける前までの経歴を記入)			
上級滑空機の総飛行時間および回数		時間	分 回
受審する滑空機と同型式の滑空機の飛行時間、回数		時間	分 回
滑空機・上級による単独飛行時間および回数		時間	分 回
② 教官の証明 (指定養成教官記入欄)			
受審者 _____ は入所要件に係る飛行経歴および所定の技能を有していることを証明します。			
教官の有する技能証明の資格と番号 _____		操縦士 No _____	
_____		操縦教育証明 No _____	
年 月 日		教官署名 _____	
③ 審査の実施 (担当者記入欄)			
期日	年 月 日	場所	担当者
(特記事項)			

※総合判定は合格、年号は西暦表示とする

入所審査判定要領・成績表

氏名 _____

書類審査

課 目	判 定 要 領	判定
航空経歴(入所審査前の経歴を記入)	ログブックにより必要経歴を確認	
操縦練習許可書	有効期限、単独飛行証明	
学科試験合格通知書	合格年月日の確認	

口述審査

課 目	判 定 要 領	判定
1 運航に必要な知識(AIMの内容の理解)		
1-1 有視界飛行方式 諸規則の適用	飛行空域によるVMC違いを理解しているか	
1-2 航空交通管制の概要、管制圏、管制区の航行	航行に必要な装備などの理解度	
1-3 飛行場標識など	R/Wマーキングなど	
1-4 搜索救難、フライトプラン	飛行計画の意味を理解	
1-5 安全対策(ヒューマンファクター等	高高度の影響、薬物、G など理解しているか 人間の能力の限界に関する事項	
1-6 報告の義務	機長の義務の理解	
2 航空機事項		
2-1 諸元、運用限界	受審機の基本性能を理解しているか	
2-2 運航形態(重量、バンク角など)の変化による性能への影響	正しく理解しているか	
2-3 飛行高度、温度、風等による性能への影響	〃	
2-4 通常操作及び緊急操作の手順	〃	
3 飛行前作業		
3-1 使用航空機の耐空性の確認	必要書類、整備記録などの確認ができるか	
3-2 適切な重量重心の管理	確実に確認できるか	
3-3 航空情報、空域の理解とノータムチェックの方法	TCA、訓練空域等の確認、NOTAM が読めるか	
3-4 気象情報の解読、ウエザーミニマムの理解	情報を解読でき、飛行の可否が判断できるか	
3-5 滑空機取り扱い	日常点検、取り扱いができる知識経験があるか	

※判定は、レ点とする

実技審査

科 目	判 定 要 領	判定
1 離着陸		
1-1 発航準備	チェックリストによる確実な準備ができるか	
1-2 離陸(横風、強風含む)	安全な離陸 適正上昇角、曳航速度の管理	
1-3 場周経路の飛行	適切な高度、経路で飛行できること	
1-4 基本着陸	安定した指定地着陸(60メートル)	
1-5 横滑りからの着陸	スリップ中危険な姿勢にならないこと、 確実なリカバリー	
2 外部視認目標を利用した飛行を含む空中操作 (2科目以上を指定して実施する、未実施は一表示)		
2-1 低速飛行	円滑で釣り合いの取れた操作	
2-2 失速と回復操作	的確な回復操作、2次失速させない、 旋回中のバンク±10度	
2-3 急旋回	円滑で釣り合いの取れた操作 速度±18km/h、停止方向±10度 傾斜角の維持、	
2-4 最良滑空速度による滑空	大気の状態による適正速度が設定できる 速度±9km/h	
2-5 最小沈下速度による滑空	最小滑空速度 ±9km/h	
2-6 地上目標を中心とした旋回	所定の経路の滑空 柔軟円滑な操作と注意力の配分	
3 ソアリング (可能な時のみ実施、口述でよい)		
3-1 各種ソアリング	基礎的な知識があるか 他機警戒を含む安全対策ができるか	
4 異常時及び緊急時の操作 (口述で確認する)		
4-1 曳航索の追い越し、索切れ、離脱不能 曳航速度の超過・低下 曳航中のポーポイズイング	対応可能な知識・経験があるか	
4-2 諸系統又は装置の故障	異常時及び緊急時の判断及び操作	
4-2 場外着陸	地点の設定と必要な操作 目測及び速度	
4-3 背風着陸	背風着陸操作の説明	
5 総合能力		
5-1 計画性・判断力	安全に飛行でき、予期される危険を回避できる	
5-2 状況認識	状況を正しく認識し、落ち着いて判断できる	
5-3 規則の遵守	規定規則を遵守する能力があること	

※判定は、レ点とする

学科教育実施記録表

氏名		大学	年生	年	・第	期	コース
科目 (教育時間)	実施項目			日時	教育時間	学科教官 署名	
1. 運航に必要な知識 1-1 一般航空知識 (1時間)	1. 有視界飛行方式に関する諸規則の概要 2. 使用滑空場、周辺の地形及び障害物 3. 飛行場(滑空場)標識施設の特性と利用法の概要 4. 搜索救難に関する規則の概要 5. 航空法規、告示、その他運航に必要な事項			／ ～			
1-2 航空機事項 (1時間)	1. 性能、諸元、運用限界 2. 諸系統、諸装置、諸装備及び故障時の処置 3. 通常操作及び緊急操作の手順			／ ～			
2. 飛行前作業 2-1 証明書、書類 (0.5時間)	1. 航空機登録証明書、耐空証明書、運用限界等指定書、航空日誌等必要な書類の有効性の確認 2. 飛行日誌等により航空機の整備状況の確認			／ ～			
2-2 重量、重心位置 (0.5時間)	1. 審査に使用する滑空機の重量・重心位置表の使用要領			／ ～			
2-3 航空情報 (1時間)	1. 必要な航空情報の入手、飛行に関連のある事項を解説、航空図の知識 2. 航空交通管制方式の概要 3. 航空保安無線施設の特性と利用法の概要			／ ～			
2-4 気象情報 (1時間)	1. 必要な気象情報入手、天気概況、滑空場、飛行場及び使用空域の実況、予報 2. 滑空気象、上昇気流の予測			／ ～			
2-5 滑空機の組立 飛行前点検 (1.5時間)	1. 滑空機の組立・分解要領、地上取り扱い要領 2. チェックリストの内容及び使用要領 3. 使用機の外部、内部点検要領 4. 離脱装置、曳航索及び曳航索安全装置の知識 5. バラスト他、積載物の安全性 6. 曳航者との打ち合わせ要領			／ ～			
3. 操縦法及び 緊急処置 (1.5時間)	1. 場周飛行及び離着陸(横風及び背風着陸を含む) 2. 曳航要領及び各種空中操作 3. 各種緊急操作要領(曳航不調、場外着陸他) 4. ソアリング要領 (サーマル、スロープ・リッジ、ウエーブ) 5. 計画力、判断力及び状況認識			／ ～			
4. 航空衛生 (1時間)	1. 航空医学一般 2. 応急処置・救急法 3. 人間の能力及び限界に関する事項			／ ～			
5. 試験 (1時間)	1. 口述による修了試験			／ ～			
教官所見				合計時間		時間	
年 月 日、 主席教官又は審査立会教官 署名							
連盟事務局確認欄		管 理 者 日本学生航空連盟 専務理事					

学科教育修了試験成績表

氏名	大学 年生	年 第	期コース
科 目	実 施 項 目		判定
1. 運航に必要な知識 1-1 一般航空知識	1. 有視界飛行方式に関する諸規則の概要		(良・否)
	2. 使用滑空場、周辺の地形及び障害物		(良・否)
	3. 飛行場標識施設の特性と利用法の概要		(良・否)
	4. 捜索救難に関する規則の概要		(良・否)
	5. 航空法規、告示、その他運航に必要な事項		(良・否)
1-2 航空機事項	1. 性能、諸元、運用限界等		(良・否)
	2. 諸系統、諸装置、諸装備及び故障時の処置		(良・否)
	3. 通常操作及び緊急操作の手順		(良・否)
2. 飛行前作業 2-1 証明書、書類	1. 航空機登録証明書、耐久証明書、運用限界等指定書、航空日誌等必要な書類の有効性の確認		(良・否)
	2. 飛行日誌等により航空機の整備状況の確認		(良・否)
2-2 重量、重心位置	1. 審査に使用する滑空機の重量・重心位置表の使用要領		(良・否)
2-3 航空情報	1. 必要な航空情報の入手、飛行に関連のある事項を解説、航空図の知識		(良・否)
	2. 航空交通管制方式の概要		(良・否)
	3. 航空保安無線施設の特性と利用法の概要		(良・否)
2-4 気象情報	1. 必要な気象情報入手、天気概況、滑空場、飛行場及び使用空域の実況、予報		(良・否)
	2. 滑空気象、上昇気流の予測		(良・否)
2-5 滑空機の組立 飛行前点検	1. 滑空機の組立・分解要領、地上取り扱い要領		(良・否)
	2. チェックリストの内容及び使用要領		(良・否)
	3. 使用機の外部、内部点検要領		(良・否)
	4. 離脱装置、曳航索及び曳航索安全装置の知識		(良・否)
	5. バラスト他、積載物の安全性		(良・否)
	6. 曳航者との打ち合わせ要領		(良・否)
3. 操縦法及び 緊急処置	1. 場周飛行及び着陸（横風及び背風着陸を含む）		(良・否)
	2. 曳航要領及び各種空中操作		(良・否)
	3. 各種緊急操作要領（曳航不調、場外着陸他）		(良・否)
	4. ソアリング要領（サーマル、スロープ・リッジ、ウエーブ）		(良・否)
	5. 計画力、判断力及び状況認識		(良・否)
4. 航空衛生	1. 航空医学一般		(良・否)
	2. 応急処置・救急法		(良・否)
	3. 人間の能力及び限界に関する事項		(良・否)
教 官 所 見			全科目判定 (合格・不合格)
年 月 日、		担当教官 署名	
連盟事務局確認欄	管 理 者 日本学生航空連盟 専務理事		

実技教育実施記録表（ウインチ曳航）

氏名		大学	年生	実施場所	年	第	期	コース
科目 (計画回数)	実施項目			月/日	判定 良・否	飛行 時間	実技教官 署名	
1. 空中操作 場周飛行 離着陸 (同乗8回) (気象条件に より課目の 組み合わせ は変更でき る) 選択式の科 目は、最低 1回以上実 施する)	1. 失速1・低速飛行・通常又は横風離着陸					分		
	2. 失速1・最良滑空速度・通常又は横風離着陸					分		
	3. 失速2・地上目標中心の旋回・通常又は横風離着陸					分		
	4. 失速2・地上目標中心の旋回・通常又は横風離着陸					分		
	5. 失速3・失速4・最小沈下速度・横滑りからの着陸					分		
	6. 失速3・失速4・ソアリング又は急旋回・ 通常又は背風着陸					分		
	7. 失速組合せ(2種類)・ソアリング又は急旋回 通常又は背風着陸					分		
	8. 空中操作科目組合せ・ 通常又は背風着陸					分		
2. 緊急操作 (同乗2回)	1. 曳航不調又は索切れ処置					分		
	2. 場外着陸要領					分		

単独飛行訓練実施の技量を確認しました。日付 年 月 日 担当教官

3. 総合演習 単独訓練 技能査定 (単独2回) (同乗1回)	1. 単独訓練、科目組合せ、指定地着陸					分		
	2. 単独訓練、科目組合せ、指定地着陸					分		
	3. 技能査定、審査要領、指定地着陸					分		
計	同乗飛行 回、 時間 分			単独飛行 回、 時間 分				
教官所見								
年 月 日、主席実技教官又は審査立会教官 署名								
(補備教育)						分		
技能審査	回、 時間 分			養成課程合計		回、 時間 分		
年 月 日、主席実技教官又は審査立会教官 署名								
連盟事務局確認欄	管 理 者 日本学生航空連盟 専務理事							

注：失速は旋回中ダイブ閉、直線中ダイブ開のそれぞれ初期失速、完全失速の4種類を行う。

失速科目の組み合わせ

1. 失速 1 進入形態—旋回中—ダイブ閉—初期失速と回復操作
2. 失速 2 進入形態—旋回中—ダイブ閉—完全失速と回復操作
3. 失速 3 着陸形態—直線中—ダイブ開—初期失速と回復操作
4. 失速 4 着陸形態—直線中—ダイブ開—完全失速と回復操作

実技教官引継表(ウイン子曳航)

コース名: 期(年) 学校名: 氏名: 総回数: 回 単独発数: 回

科目	各飛行共通				1. 空中操作														2. 緊急				3. 総合				着陸				(教官引継事項) 講評	判定(良・否)	教官署名								
	日付	13	13	13	発航準備	通常離陸又は横風離陸	ウイン子曳航による上昇、離陸	場周経路の飛行	低速飛行	失速1(旋回・ダイブ閉・初期)	最低滑空比速度による滑空	失速2(旋回・ダイブ閉・完全)	地上目標を中心とした旋回	失速2(旋回・ダイブ閉・完全)	地上目標を中心とした旋回	失速1(旋回・ダイブ閉・初期)	失速1(旋回・ダイブ閉・初期)	失速3(直線・ダイブ開・初期)	失速4(直線・ダイブ開・完全)	ソアリング又は急旋回	失速(2種類)	ソアリング又は急旋回	ニアリング又は急旋回	空中操作科目組み合わせ	曳航不調又は索切れ	場外着陸要領	単独技量の確認	単独訓練・科目組み合わせ	技能査定・審査要領	通常又は横風着陸				通常又は背風着陸	横すりからの着陸	指定地着陸	科目の必要回数				
1-1 /																																									
1-2 /																																									
1-3 /																																									
1-4 /																																									
1-5 /																																									
1-6 /																																									
1-7 /																																									
1-8 /																																									
2-1 /																																									
2-2 /																																									
3-1 /																																									
3-2 /																																									
3-3 /																																									
実施回数																							確認日:				教官署名														

※科目の評価:A=良(安定している) B=良(判定基準内) C=否(判定基準外) D=否(理解不足)
 ※飛行の判定:良=実施科目の判定がすべて[A]又は[B]の場合 否=実施科目の判定に「C」又は「D」がある場合。又は、高度判定不良の場合。

実技教育の実施手順及び実技教官引継表の記入要領

1. 科目回数の右の欄に日付を記入 例 10/1
2. 各飛行の各科目は、原則的に「・」で表記している科目を実施し評価する。
3. 各飛行時に指定された科目実施後、高度に余裕がある場合は次回以降に実施予定もしくは気象条件等により未実施であった科目の1科目（失速1から4、低速飛行、最良滑空速度による滑空、最小沈下速度による滑空、地上目標を中心とした旋回及びソアリング又は急旋回の内の1科目）のみ実施して、評価することが出来る。
4. 3.の飛行で事前に実施し評価された科目も、「・」で表記している科目は再度実施し評価する。
5. 各科目は、「A」、「B」、「C」、「D」で評価し記入する。
6. 科目の評価： A=良（安定している）、 B=良(判定基準内)
C=否（判定基準外）、 D=否（理解不足）
7. 各飛行の判定は、「良」または「否」で記入する。
8. 各飛行において、全ての科目の評価が「A」又は「B」の時、飛行の判定を「良」とする。
9. 高度等の関係で一部の科目が未実施の場合は、実施した科目の評価が「A」又は「B」以上の時、未実施の科目の評価は未記入とし、特に高度判断、離着陸に問題がなければ飛行の判定を「良」とし、以降の飛行で実施し評価を記入する。
10. 各飛行において一部の科目の評価が「C」又は「D」の場合、講評欄の引き継ぎ事項に状況を記入し、飛行の判定を「否」とする。
11. 高度判断の不良により通常の場合周飛行が実施できない時は、全ての科目の評価は未記入とし、飛行の判定を「否」とする。
12. 飛行の判定が「否」の場合は、追加教育を実施する。
13. 1. 空中操作、2. 緊急操作の追加教育を実施する場合は、3. 総合演習の前までに実施する。
14. 科目の評価が「C」又は「D」が下された飛行の追加教育は（10.の場合）、その科目を実施し評価する。評価が「A」又は「B」以上の時、飛行の判定を「良」とする。
15. 高度判断の不良により通常の場合周飛行が実施できない飛行での判定が「否」の追加教育は（11.の場合）、その飛行で実施予定の全ての科目を実施する。
16. 追加教育は、ウインチ曳航による教育に於いては3回、航空機曳航による教育に於いては2回を限度とする。
17. 追加教育を実施した飛行の講評欄には、「追加教育」である旨を記入する。
18. 3. 総合演習の直前に実施した飛行で、実技教育実施記録表（様式9-2及び9-3）及び実技教育引継表（様式9-6）の講評欄に「単独飛行の技量を確認」した旨を記入する。
19. 3. 総合演習の1.単独訓練までに、1. 空中操作、場周飛行、離着陸、2. 緊急操作の各科目について、評価が「A」又は「B」以上の実施回数が必要回数を満たしていることを確認する。（実施回数が必要回数を超えても良い）
20. 3. 総合演習の1.単独訓練までに、1. 空中操作、場周飛行、離着陸、2. 緊急操作の各科目について、評価が「A」又は「B」以上の実施回数が必要回数を満たしていない場合は、補習を実施する。
21. 補習を実施した飛行の評価欄には、「補習」である旨を記入する。
22. 3. 総合演習 3.技量査定を担当した教官は、各科目ごとの実施回数の合計を記入し、必要回数が実施されたかを確認する。

技能審査成績報告書

(滑空機)

総合判定

① 受審者調書 (受審者記入欄)			
ふりがな		生年月日	
氏名		年	月 日生
受審する資格	審査の種類		既得の技能証明
自家用操縦士	技能証明		No _____
審査に使用する滑空機			操縦練習許可書番号
等級	型式	国籍・登録記号	No _____
上級滑空機	式 型	JA	有効期限 年 月 日
現住所	郵便番号		電話番号
大学名	電話番号		
学科試験合格	年 月 日		受験地
飛行経歴 (技能審査を受ける前までの経歴を記入)			
上級滑空機	総飛行時間および回数	時間	分 回
受審する滑空機と同型式の滑空機の飛行時間、回数		時間	分 回
上級滑空機による単独飛行時間および回数		時間	分 回
② 教官の証明 (指定養成教官記入欄)			
受審者 _____ は指定養成施設の所定の教育を修了し、技能審査に係る飛行経歴および所定の技能を有していることを証明します。			
教官の有する技能証明の資格と番号 _____		操縦士 No _____	
		操縦教育証明 No _____	
年 月 日		教官署名 _____	
③ 審査の実施 (審査員記入欄)			
口述審査	期日	年 月 日	場所 審査員
実技審査	期日	年 月 日	
(特記事項)			
④ 教育課程の修了 (日本学生航空連盟確認欄)			
担当者	責任者		管理者

様式 9 - 5

資 格 審 査	項 目	判 定
	操縦練習許可書等、飛行経歴・教育記録、学科試験合格通知書、無線従事者免許証	

成 績 表

審 査 科 目	判 定	審 査 科 目	判 定
口 述 審 査			
1. 運航に必要な知識			
1-1. 一般知識		1-2. 航空機の性能・運用限界等	
実 技 審 査			
2. 飛行前作業			
2-1. 証明書、書類		2-2. 重量・重心位置	
2-3. 航空情報、気象情報		2-4. 組立	
2-5. 地上取扱		2-6. 飛行前点検	
3. 滑空場（飛行場）および場周経路における運航			
3-1. 発航準備		3-2. 場周経路の飛行	
4. 各種離陸及び着陸			
4-1. 曳航による離陸		4-2. 滑空による着陸	
5. 曳航による飛行（5-1 又は、5-2）			
5-1. ウインチ曳航による飛行		5-2. 航空機曳航による飛行	
6. 外部視認目標を利用した飛行含む空中操作			
6-1. 低速飛行		6-2. 失速と回復操作	
6-3. 急旋回		6-4. 最良滑空比速度による滑空	
7. ソアリング			
7-1. ソアリング			
8. 異常時及び緊急時の操作			
8-1. 曳航中の異常時及び緊急時の操作		8-2. 諸系統又は装置の故障	
8-3. 場外着陸		8-4. 背風着陸	
9. 航空交通管制機関又はピストとの連絡			
9-1. 管制機関等と連絡			
10. 総合能力			
10-1. 計画性・判断力		10-2. 状況認識	
10-3. 規則の遵守			